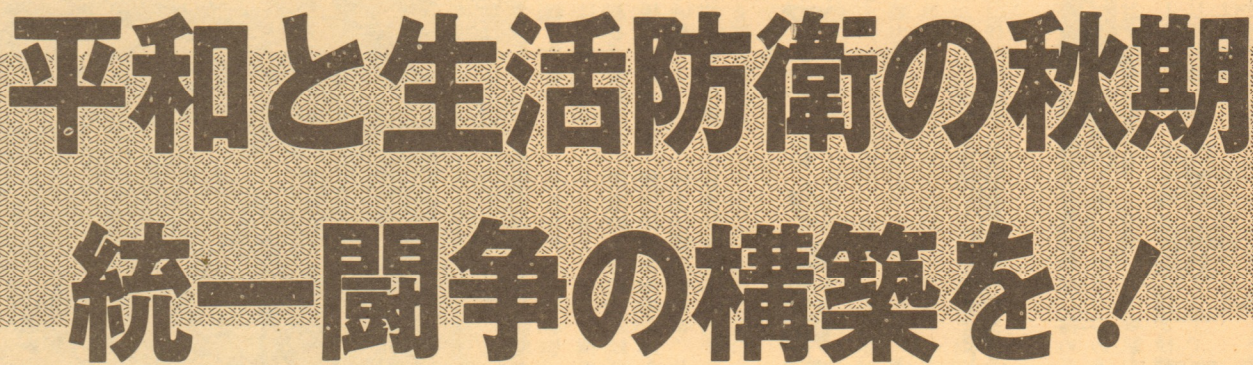


大衆的青年同盟建設のために



運動がある中で、公務員共
闘は中央はもとより各地で
闘い、また総評は、減税・
政治倫理などを焦点に国民
的な運動を展開しようとし

黨結成覚悟で臨まなければならぬ」とする意見が河本派で続出している。福田派などの動きもあわせて、田中判決前後を中心に自民党内部の動きも見落してはならない。

秋閣・臨時国会へ
大衆闘争の集中をノ

秋閣は既に開始されている。二年続きの人勸凍結の動きがある中で、公務員共闘は中央はもとより各地で闘い、また総評は、減税・政治倫理などを焦点に国民的な運動を展開しようとしている。状況によつては解散—総選挙が予想され、勤労大衆の統一した闘いの構築こそ急務であり、その大衆的な圧力で、中曽根内閣の軍拡・行革攻撃と対決していくかねばならない。

ニカラグア・チャドへの

米帝の軍事挑発糾弾!

新殖民地主義打破へ

闘う人民

八月に入つてほぼ同時に開始された、中米のニカラグアとエルサルバドル、北アフリカのリビアとチャドの民族解放勢力に対する米帝国主義の露骨な軍事的脅威は、周辺国、チャドでは仏を巻き込んで、軍事的緊張をこの上もなく高めている。こうした戦争の危機をまき散らすことで、疑いもなく自分達に有利な情勢が得られると思ひ込んでいるレーガン政権の冒險主義的政策こそが、軍拡を更にエスカレートさせ、核戦争の危機を一層高めている。

米帝國主義の
冒險主義的政策

中米と北アフリカに対する
米軍の大規模な展開は米帝

民族解放運動を軍事力で
わじぶせることができる
というレーガン政権の盲信は
昨年のイスラエルを使った
破廉恥きわまるレバノン侵
略に示している。

8月に入って米帝国主義
は、空母レインジャー、同
コーラルシー、戦艦ニュー



ジャージーの機動部隊を中米海域に投入、軍事演習に名を借りたニカラグア「海上封鎖」を行い、軍事的脅威の下で中米情勢を米帝国主義に有利な方向に持つて行こうとしている。

同様に、北アメリカのチ

政策は危機的状況にある。独占体の圧迫から脱しようとする諸国民の闘争が各地で高まり、帝国主義支配の連鎖は特に中米で弱環となつてゐる。

一般に、帝国主義国と発

展途上諸国の利害は、資本

勢に對して、リビア沖に空母アイゼンハワーの機動部隊を待期させ、スーダン、エジプトへの空中警戒管制機(AWACS)を展開すると同時に、米・エジプト、米・スーダンの合同軍事演習を開始、仏を巻き込んで民族解放勢力の圧殺を目論んでいる。

こうした米帝國主義軍の大部隊を展開して、軍事的脅威によつて國際關係をコントロールしようとするレ

主義的國際分業体制の下
「中心」である帝國主義に
對するすべての周辺國の義
平等な地位、アジア・アフ
リカ・ラテンアメリカ諸國
それぞれの國の發展にきわ
めて必要な資源の搾取およ
びそれら資源に対する主權
の侵害によつて常に対立せ
ざるを得ない。とりわけア
メリカの多國籍企業活動
は、資本主義世界で特別な
役割を演じており、今日の
新植民地主義の主力である
レーガン政權の侵略的・冒

米・レーガン政権は「新核戦略」の下、今年末、欧州へ新型ミサイル「パーシングⅡ」、来年六月極東への核巡航ミサイル「トマホーク」の配備を予定している。中曽根は、レーガンのよき支持者、パートナーとして一層露骨な軍拡政策を進めてきている。そして、今夏、第七艦隊、戦艦「ニユージャージー」の日本寄港が予定されていた。米の都合により寄港はとりやめになったものの佐世保には空母「ミッドウェイ」が入港し、不沈空母化は急速に進んでいる。今回、ニュージャージー寄港と日本母港化と同時に当艦に対して来年六月の核巡航ミサイル配備の予定が公言された。つ

ニュージーランド母港化の
意味するもの

だが、これまで占めていた地歩を失うまいとする米帝国主義の冒險主義的政策が、その世界政策の破綻の現れであるとはいへ、これが全世界にとつてきわめて危険な結果をもたらすといふことは明らかである。

二つの世界体制の闘争が激化し、今日の全世界的な諸問題の中でも戦争と平和の問題が最も主要な地位に押し出されているとき、帝国主義の侵略政策に反対する闘争と、異なる社会制度を持つ国々の平和共存の原則を確立するための闘争の弁証法的統一が必要とされているのである。

GNP 1%突破に
拍車かかる防衛費

と指針

八月三日、防衛費が、防衛費の「枠」拡大に向け「一般歳出の一割内」とする方向で検討していることが明らかとなった。

これは、これまでの「GNP 1%以内」に代わる防衛費の新しい歯止めとして登場したものであるが、事実上、歯止め外し（毎日）と言っても過言ではなく危険きまりまらないものであると指摘できる。

1%枠は「防衛計画大綱」を決めたあと五一年一月の閣議で決定された。すなわち四九年一月三木内閣の誕生を背景に、これまでの「所要防衛力」論に代って「基盤的防衛力構想」が展開され、当時、制服組は、その構想に基づく大綱はあくまで目標と反論した。しかしながら大綱を防衛力の限界（上限）と主張する内局組が、最終的に

—經濟展望—

1980年代経済社会の展望と指針

①軍事大国化をめざす考
え方が今回はじめて経済計
画に持ち込まれたことが第
一の特徴である。「世界G
NPの約一割を占める我国
は、世界経済を与件として
考える発想から脱却しなけ
れば、国際的に孤立する」
とし、「西側の一員」を強
調している。しかし、その
実態は、レーガンの軍拡路
線を積極的に受け入れる姿
勢であることは言うまでも
ない。又、資源・エネルギー
の海上輸送の安定確保に
ついては、すぐに「シーレー
ン防衛」に結びつけるなど
、中曽根軍拡路線は、経済
計画の中にもしっかりと
反映されているのである。

首相の間機関である経済審議会が、83年から90年までの8年間の経済運営の基本的な在り方を示す「一九八〇年代経済社会の展望と指針」を答申したことを受けて、政府は、8月12日の閣議で、これを経済運営の基本方針として正式決定した。今回出された10番目の中期経済計画は、鈴木前

必然的にそれは一方では中小企業や農業を犠牲にした内需主導型の景気政策となっている。また、民間企業に対する規制を緩和（独禁法緩和を財界は働きかけている）し、国民生活に欠

かせない社会資本整備や村会サービス供給についても、民間企業にまかせるとしたもの、行革絡みの政策となっている。

首相に諮していた。新経済5カ年計画を白紙にもとして、期間をより長期的に、内容も「彈力的」なものにするとした極めて政治性の濃い、中曽根路線を踏襲したものとなっている。

つまり、名称について言えば、「計画」ではなくて「展望と指針」であり、「計画」とする言葉は社会主義を暗示するものという首相の

③更に、「展望と指針」は、最大の課題として、行財政改革をあげ、臨調路線をそのまま踏襲している。

90年までに赤字国債発行をゼロにすることを目標とし、徹底した歳出カットを要請。今後の予算編成で、徹底的に概算要求枠の設定が必要だとしている。又、世

「計画」になっているのである。

このように「展望と指

トマホーク配備阻止の

一大行動を!!

83 原水禁世界大会、禁大会より

ば、大会は今後どのような運動を行うべきかについては、ほとんどなにも決められずに終了した。

大会を通じて共通して強調されたのは、やはりトマホークの極東配備に反対するということであつた。そのことは、各分科会における脅威」の前に薄められてしまつてゐるのである。

この反ソデマ攻撃を克服することは「限定核戦争」戦略と対決する上で、不可避の問題である。

しかし、このことが克服されるのは、論争によつてではない。運動を通じてではなかつた。言われた

る。か。危機的情勢と、世界的な反核運動の高揚の中で日本の原水禁運動も、部分的には重大な変化を見せていた。その一つは、緊急の課題の提起と、それに向けた行動方針の提起である。それは、最も広範な人々

基地機能強化の策動は、だいに周辺地域での反基地の闘いを呼び起している。トマホーク配備を支える。れら基地強化を具体的に暴露していくこともう一つの点であり、この闘いは既に展開されているのである

である。その後、現役を退いていたが、レーガンの六
百隻海軍構想の下に「『安
がり』という理由で改装さ
れ今に至っている。同じ世
代の戦艦『アイオワ』など
4艦も目下改装中である。

巡航ミサイルと

マイナス10%シーリング
の六・八八%アップという
日本の「防衛」予算の聖域
を更に拡大しようとするも
のである。ニール・ジャ
ー、トマホークの日本寄港
阻止は核戦争防止のための
重要な大衆闘争の課題でも
ある。

下に進められていくという
ことである。すなわち内局
組の下に決定した「大綱」
「GNP一%以内」を全て
見直し、制服組が納得する
よう進められ、それを中曾
根内閣が後押ししているこ
とに注意する必要がある。
GNP一%枠について国
民の七割近い人が一%枠の
歯止めを支持している。(毎
日)これらの世論を今こそ
は軍拡・行革の中曾根路
の踏襲であり、勤労人民
の犠牲を強要するもの、以
てはならないのである。

は何ら出し得ない、という状況であったことは、なにも今回に限らず、毎年繰り返されて来たことである。それは、日本の平和運動が原則的な指導部隊を欠く中で、常に具体的な課題に運動を集中できないことの反映であった。

では今年の大会も「セレモニ」としての「運命」を避けられなかったのだろうか。

署名運動というものが決して画期的な方針ではないのは明らかなである。日本の労働階層は、延べ八千万名と言われるSDⅡへ向けた署名運動の結果から、しっかりとそれを学んでいる。しかし、問題なのは、総てが署名カンパニアに流し込まれ、その運動だけに留まるということである。

又、日米政府の横須賀の基地機能強化の策動は、し

ニュージャーシーは、レীগンの世界戦略の一つ、六百隻海軍構想に基づき再就役し、第七艦隊へ配置された。ニュージャーシーは一九四三年完成以来、第二次大戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争において実戦配備され、沿岸砲撃など、侵略と弾圧という前科をもつ戦艦である。その後、現役を退

から狂戦士戦争のついでに彼として緊張を高めるのは必要である。

ニュージャーシーの狙いは、予定される寄港は、反核意識の決定的な払拭と、国政レベルでは非核三原則の実質撤廃との下に、日米同盟強化、日本の核基地化に拍車をかけようということにある。又、一般歳出のマイナス10%シーリング中

一兆円にものぼる予算化は六〇年以降とすることにしている。このことから、「一割防衛予算構想」を六〇年度予算に照準を合わせていることが明白である。更に注意しておかなければならないことは、このような防衛費の突出、聖域化が五三年有事立法策動を初めてする制服組の巻き返しの下に進められているという。

「計画」ではなくて「展望と指針」であり、「計画」とする言葉は社会主義を連想させる」という首相の反動的体質を明確に打ち出したものであると同時に、「目標数値はあくまで便宜的なもの、経済状況の変化に応じて毎年新し況の」とする極めて無責任な経済「計画」になっているのである。

このように「展望と指

の六・八八%アップという日本の「防衛」予算の聖域を更に拡大しようとするものである。ニール・ジャージー、トマホークの日本寄港阻止は核戦争防止のための重要な大衆闘争の課題でもある。

「展望と指針」は以下の三つの重要事項を掲げている。

民の七割近い人が一％枠の歯止めを支持している。（毎日）これらの世論を今こそ

は軍拡・行革の中曽根路の踏襲であり、勤労人民の犠牲を強要するものではないのである。

巻き起こし軍国主義強化向かう制服組の策動を許してはならない。

ニュージャーシーは、レীগンの世界戦略の一つ、六百隻海軍構想に基づき再就役し、第七艦隊へ配置された。ニュージャーシーは一九四三年完成以来、第二次大戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争において実戦配備され、沿岸砲撃など、侵略と弾圧という前科をもつ戦艦である。その後、現役を退

から狂戦士戦争のついでに彼として緊張を高めるのは必要である。

ニュージャーシーの狙いは、予定される寄港は、反核意識の決定的な払拭と、国政レベルでは非核三原則の実質撤廃との下に、日米同盟強化、日本の核基地化に拍車をかけようということにある。又、一般歳出のマイナス10%シーリング中

一兆円にものぼる予算化は六〇年以降とすることにしている。このことから、「一割防衛予算構想」を六〇年度予算に照準を合わせていることが明白である。更に注意しておかなければならないことは、このような防衛費の突出、聖域化が五三年有事立法策動を初めてする制服組の巻き返しの下に進められているという。

「計画」ではなくて「展望と指針」であり、「計画」とする言葉は社会主義を連想させる」という首相の反動的体質を明確に打ち出したものであると同時に、「目標数値はあくまで便宜的なもの、経済状況の変化に応じて毎年新し況の」とする極めて無責任な経済「計画」になっているのである。

このように「展望と指

人勸・仲裁完全実施、大中減税実現

行革国会を包囲する 官民統一闘争で

秋闘の一大高揚を！

「賃金以外の労働条件の改善」を闘う労働組合の統一闘争として発展してきた秋闘は、この間労働運動のなかで重要な役割を担ってきた。この間の闘いは七三年の年金スト、七四年の福祉ストなど、全国的課題でストライキ闘争を組織し、「厚生年金・国民年金への物価スライド制の導入」「老人医療の無料化」「通勤途上災害への労災適用」など大きな制度改善を闘い取ってきた。しかし今日、中曽根内閣の軍拡・行革攻撃の下で、これら既得権すら大きく後退させられようとしている。官民の統一闘争で秋闘の一大高揚を勝ち取り、中曽根内閣の打倒へ向けて前進しよう！

八三秋闘を巡る課題は、すでに中曽根内閣により、第一に、人勸・仲裁完全実施の闘いである。八三春闘の結果をうけ、公労委より出された仲裁裁定平均四・三二％アップ(春闘相場は四・四〇～四・五〇％)は、

支給割合四・九ヵ月分)を握る置き、支給日を変更する一などの内容で出された。定昇込みで八・五八％のこの勧告は、八三春闘相場六・八％、八三春闘相場四・四〇の合計すら大巾に下廻り、極めて低額な勧告である。にもかかわらず中曽根内閣は、「額並びに実施時期両面から」抑制すること、を言明し、閣議で決定しようとしている。

第二に、「時短」「雇用拡大」の闘いである。人減らし・合理化攻撃と対決する中、賃金切り下げなしの時短を基礎に、雇用を拡大させることである。

第三は、大中減税実現の闘いである。中曽根内閣は先の通常国会での「景気浮揚に役立つ大中減税を、五十八年中に実施する」との与野合意や衆議院議長見解や「減税はやる」といった「確約」にもかかわらず、第四は、八四予算に端的



て有効に作用している。それは第一に、長期化し見通しのない不況の中で何の抵抗もなしに生産の拡大と縮小に応じて自由自在に行なえる雇用調整弁としてであり、第二に、企業間競争を勝ち残るための安価な労働力の供給源として、一般労働者ひいては組合の存立を脅かす、総体として賃金、労働条件を下げようとする「しずめ石」として機能している。パート労働者は、低成長、低賃金の下、物価高、教育費、ローン等におおわれる家庭の計画的色彩を濃くもっているとともに、流動的労働力というより「常用労働力」として企業の中に定着してきている。

第五は、これらの闘いを大衆的に展開する中、十・一二田中ロッキード判決を有利に活用し、それを支える中曽根内閣打倒の闘いへと合流していくことである。すでに、労働者階級は、その闘いの準備にはいっている。

日教組・自治労などで構成する公務員共闘会議は、八月九日の合同会議で、人勸完全実施をめざし、九月六日に最高二時間(早朝)の第一波ストライキを決めた。

また、総評は八月十九日役員会を開催し、①臨時国会召集日の九月八日の労働四団体と全労協主催による「減税早期実現総決起集会」に、労働団体の運動の準備が進む中で、野党各党は、

このように、減税を中心、労働団体の運動の準備が進む中で、野党各党は、

臨時国会を「秋以降の激動政局の勝負どころ」と位置づけ、対応策の検討にはいっている。すでに減税問題では、①所得税一兆円、地方税四千億円の大型減税と②そのための所得税法の戦術を決定する③十一・二判決に即時対応の行動を組織するなどを柱とする秋闘方針を決めた。また、「年金制度改善阻止」「年間二千時間以下への労働時間短縮」「定年延長」などを要求し、特に年金問題では、ヤマ場での「統一スト」を配置する方針である。

一方、同盟は、九月二十二日の第三十回執行評議会でも九月以降「くらしを高め、闘いを展開すること」を決め、①減税の早期実現②労働時間の短縮③年金の抜本的改善④雇用の不安解消の四つを重点目標に決めた。

このように、減税を中心、労働団体の運動の準備が進む中で、野党各党は、

パート労働に 本格的対策を

増大するパート労働者

深刻な不況に直面している日本経済は、増々矛盾を露呈し、倒産と失業の山を築いている。倒産は、引き続き一五〇〇件前後で推移し、完全失業率は今年四月段階で一五・八万人(二・六九％)を突破している。

このような雇用不安の中で現在著しく増加しているのがパート労働者である。パート労働者対策は、労働運動として今日最も急がれている課題である。

パート労働者の増加率は極めて著しい。実に、パート労働者は雇用労働者の一割に達している。

また、パート労働者のうち、女子は九割を占め、全女子労働者の二割に達している。年齢構成は、三十五四の中高年層が七割を占め、九割近くが既婚者である。

産業別にみた場合、卸売小売・製造・サービス業の単純作業が中心であるが、七二％にのぼる。

また、労働省の調査によ

七倍であったことを考えると、パート労働者の増加率は極めて著しい。実に、パート労働者は雇用労働者の一割に達している。

また、パート労働者のうち、女子は九割を占め、全女子労働者の二割に達している。年齢構成は、三十五四の中高年層が七割を占め、九割近くが既婚者である。

また、労働省の調査によ

予想される。企業規模では二九人未満の小企業に過半数が集中している。

ことようにみてきた場合パート労働者は、低成長、低賃金の下、物価高、教育費、ローン等におおわれる家庭の計画的色彩を濃くもっているとともに、流動的労働力というより「常用労働力」として企業の中に定着してきている。

一般常用労働者との条件格差も大きく、八割を越す事業所で格差があるとされている。

とくに、賃金についてみれば、男子本工労働者の五八％にすぎないと言われる女子本工労働者の賃金の七六％にしか達しないという低いものである。

パート労働者の問題は、今日日本経済にとって極めて

パート労働者の問題は、今日日本経済にとって極めて

パート労働者の問題は、今日日本経済にとって極めて

パート労働者の問題は、今日日本経済にとって極めて

パート労働者の問題は、今日日本経済にとって極めて

日教組支援集会

1万6千名結集！



業内での女子労働者の闘争との結合は急務である。

日教組第五十八回定期大会は、岡山県真庭郡湯原町で、八月三十日から九月二日までの四日間開催された。主会場は、プレハブ会場となった。

何故プレハブ会場となったのかは、すでにマスコミ等による報道で明らかであるが、地方自治体での反動化が進行していると同時に、教育、特に、その主要な担い手である教育労働者に対する攻撃のすさまじさを、この事件を通してみることが出来る。

日教組大会や教研集会への右翼の直接妨害が始まったのは、動評反対闘争時の一九五八年に始まる。

日教組が集中砲火を浴びているのは、平和と民主主義そのものが攻撃されていることに他ならない。

投稿

春闘立て直しの論議と 労戦統一問題

して、全労協を軸に統一闘争をいかに追求していくのかを克服すべき課題も多い。

しかしながら、四九単産約四八〇万人と民間組織労働者の過半数を占めるにいたった全労協の再構築はない。(〇)

して、全労協を軸に統一闘争をいかに追求していくのかを克服すべき課題も多い。

公労協・公務員共闘についても、仲裁・人勸の完全実施を掲げながら、減税を中心とした秋闘において、民間労働者との共闘を目的意識的に追求しながら、臨調・行革攻撃の中で分断させられていく官・民の労働者の統一と団結を克服取っていくことなしに、労働者の生活を守り、その社会的権利を拡大していく春闘の再構築はない。(〇)

公労協・公務員共闘についても、仲裁・人勸の完全実施を掲げながら、減税を中心とした秋闘において、民間労働者との共闘を目的意識的に追求しながら、臨調・行革攻撃の中で分断させられていく官・民の労働者の統一と団結を克服取っていくことなしに、労働者の生活を守り、その社会的権利を拡大していく春闘の再構築はない。(〇)

配置も含めた合意形成を必要としていることも言うまでもない。また、「共同行動を推進する為のゆるやかな協議体」と位置づけられた全労協に強い指導力を求めるためには減税・時短などを中心とした今秋闘をはじめと

した闘える条件・力量をもつ主要単産を前に立てながら「統一」の力量を最大に生かそうとする部分とこうした「統一」の流れを押し止めようとする部分との分岐が明確になつてきている時、全労働者に課せられた課題は、「統一」に名を借りた労使協調路線を許さず闘う「統一」へと一歩でも前進しようとする芽を大事に育てるため、最大限の共同行動を追求、展開することである。

とりわけ、こうした春闘論議にとどまらず、政策・制度要求についても行革・エネルギー(原発)問題などで意見の一致をみることができないであり、同盟や鉄鋼労連からは、このままでは、路線があいまいにされるという危機意識が強まっていることも事実である。

年金改悪を許すな 国家責任と負担の否定

社会保障への 思想攻撃の特徴

臨調・行革路線に基づく社会保障に対する攻撃は、医療・年金・社会福祉にわたる極めて総合的かつ具体的なものとなっている。こうした攻撃の表裏一体の関係を明らかにしている思想攻撃の特徴を把握しておく必要がある。

その第一は、「わが国の社会保障は、制度的に西欧諸国に比較しては遜色ない水準に達している」(臨調第三次答申)というものである。しかし、日本の社会保障は、ILOが一九五二年に採択した後進国の社会保障を改善するための「社会保障の最低基準に関する条約(一〇二号)」に示されている九部門中四部門でのみ基準に達し、しかも一九七六年になってやっと批准したにすぎないものである。この遅れた状態にあることは、当局自身が「西欧に遜色がない」とよくいわれているが、受給者の実態がみればまだまだそこまではない。年金にいたっては、現実に出しているのは二万円ばかりで、西欧に遜色がないどころの話ではない(山口厚生省年金局長)と言っており、「西欧並みとなった」とする臨調の言分を、はからずとも内部から暴露するものとなっている。

第二は、財政危機の重大な要因が、社会保障の充実にあつたものである。一定の社会保障は、一定の社会増進の増加や社会増進の充実が同じ時期に急速に試みられたために、財政赤字が構造化している(臨調第三次答申)とする言分は、政当局による財政危機の責任を労働人民に転嫁するに動機がある。社会保障の全面的見直しは、社会保障への支出は「空費」であるとする資本の論理がむきだしにされている。日本の社会保障の水準からしても、この言分は全く不当なものである。と言わなければならない。

第三は、社会保障の全面的見直しは、国民の自立、自助の精神、自己責任の気風を妨げないようにするものであるとの言分である。

「援助を真に必要とする人々には暖かく、また十分な福祉サービスを提供し、同時に自立・自助の精神、自己責任の気風を妨げないように行政のあり方が明確にされなければならない。医療、年金、福祉、文教等については以上の観点から、制度の根本に立ち返った検討を行う必要がある」(第一次答申)。社会保障を充実すると人間は働かなくなり、経済は活力を失ってしまう、貧しい方が国民はよく働いて活力を発揮するというべつての感情を根拠に持つものである。そして、「援助を必要とする人々」に必要とする人びとに限定して、一定の社会保障は、一定の社会増進の増加や社会増進の充実が同じ時期に急速に試みられたために、財政赤字が構造化している(臨調第三次答申)とする言分は、政当局による財政危機の責任を労働人民に転嫁するに動機がある。社会保障の全面的見直しは、社会保障への支出は「空費」であるとする資本の論理がむきだしにされている。日本の社会保障の水準からしても、この言分は全く不当なものである。と言わなければならない。

必要とする人びとに限定して、一定の社会保障は、一定の社会増進の増加や社会増進の充実が同じ時期に急速に試みられたために、財政赤字が構造化している(臨調第三次答申)とする言分は、政当局による財政危機の責任を労働人民に転嫁するに動機がある。社会保障の全面的見直しは、社会保障への支出は「空費」であるとする資本の論理がむきだしにされている。日本の社会保障の水準からしても、この言分は全く不当なものである。と言わなければならない。

「援助を真に必要とする人々には暖かく、また十分な福祉サービスを提供し、同時に自立・自助の精神、自己責任の気風を妨げないように行政のあり方が明確にされなければならない。医療、年金、福祉、文教等については以上の観点から、制度の根本に立ち返った検討を行う必要がある」(第一次答申)。社会保障を充実すると人間は働かなくなり、経済は活力を失ってしまう、貧しい方が国民はよく働いて活力を発揮するというべつての感情を根拠に持つものである。そして、「援助を必要とする人々」に必要とする人びとに限定して、一定の社会保障は、一定の社会増進の増加や社会増進の充実が同じ時期に急速に試みられたために、財政赤字が構造化している(臨調第三次答申)とする言分は、政当局による財政危機の責任を労働人民に転嫁するに動機がある。社会保障の全面的見直しは、社会保障への支出は「空費」であるとする資本の論理がむきだしにされている。日本の社会保障の水準からしても、この言分は全く不当なものである。と言わなければならない。

「援助を真に必要とする人々には暖かく、また十分な福祉サービスを提供し、同時に自立・自助の精神、自己責任の気風を妨げないように行政のあり方が明確にされなければならない。医療、年金、福祉、文教等については以上の観点から、制度の根本に立ち返った検討を行う必要がある」(第一次答申)。社会保障を充実すると人間は働かなくなり、経済は活力を失ってしまう、貧しい方が国民はよく働いて活力を発揮するというべつての感情を根拠に持つものである。そして、「援助を必要とする人々」に必要とする人びとに限定して、一定の社会保障は、一定の社会増進の増加や社会増進の充実が同じ時期に急速に試みられたために、財政赤字が構造化している(臨調第三次答申)とする言分は、政当局による財政危機の責任を労働人民に転嫁するに動機がある。社会保障の全面的見直しは、社会保障への支出は「空費」であるとする資本の論理がむきだしにされている。日本の社会保障の水準からしても、この言分は全く不当なものである。と言わなければならない。

「援助を真に必要とする人々には暖かく、また十分な福祉サービスを提供し、同時に自立・自助の精神、自己責任の気風を妨げないように行政のあり方が明確にされなければならない。医療、年金、福祉、文教等については以上の観点から、制度の根本に立ち返った検討を行う必要がある」(第一次答申)。社会保障を充実すると人間は働かなくなり、経済は活力を失ってしまう、貧しい方が国民はよく働いて活力を発揮するというべつての感情を根拠に持つものである。そして、「援助を必要とする人々」に必要とする人びとに限定して、一定の社会保障は、一定の社会増進の増加や社会増進の充実が同じ時期に急速に試みられたために、財政赤字が構造化している(臨調第三次答申)とする言分は、政当局による財政危機の責任を労働人民に転嫁するに動機がある。社会保障の全面的見直しは、社会保障への支出は「空費」であるとする資本の論理がむきだしにされている。日本の社会保障の水準からしても、この言分は全く不当なものである。と言わなければならない。

「援助を真に必要とする人々には暖かく、また十分な福祉サービスを提供し、同時に自立・自助の精神、自己責任の気風を妨げないように行政のあり方が明確にされなければならない。医療、年金、福祉、文教等については以上の観点から、制度の根本に立ち返った検討を行う必要がある」(第一次答申)。社会保障を充実すると人間は働かなくなり、経済は活力を失ってしまう、貧しい方が国民はよく働いて活力を発揮するというべつての感情を根拠に持つものである。そして、「援助を必要とする人々」に必要とする人びとに限定して、一定の社会保障は、一定の社会増進の増加や社会増進の充実が同じ時期に急速に試みられたために、財政赤字が構造化している(臨調第三次答申)とする言分は、政当局による財政危機の責任を労働人民に転嫁するに動機がある。社会保障の全面的見直しは、社会保障への支出は「空費」であるとする資本の論理がむきだしにされている。日本の社会保障の水準からしても、この言分は全く不当なものである。と言わなければならない。

「援助を真に必要とする人々には暖かく、また十分な福祉サービスを提供し、同時に自立・自助の精神、自己責任の気風を妨げないように行政のあり方が明確にされなければならない。医療、年金、福祉、文教等については以上の観点から、制度の根本に立ち返った検討を行う必要がある」(第一次答申)。社会保障を充実すると人間は働かなくなり、経済は活力を失ってしまう、貧しい方が国民はよく働いて活力を発揮するというべつての感情を根拠に持つものである。そして、「援助を必要とする人々」に必要とする人びとに限定して、一定の社会保障は、一定の社会増進の増加や社会増進の充実が同じ時期に急速に試みられたために、財政赤字が構造化している(臨調第三次答申)とする言分は、政当局による財政危機の責任を労働人民に転嫁するに動機がある。社会保障の全面的見直しは、社会保障への支出は「空費」であるとする資本の論理がむきだしにされている。日本の社会保障の水準からしても、この言分は全く不当なものである。と言わなければならない。

「援助を真に必要とする人々には暖かく、また十分な福祉サービスを提供し、同時に自立・自助の精神、自己責任の気風を妨げないように行政のあり方が明確にされなければならない。医療、年金、福祉、文教等については以上の観点から、制度の根本に立ち返った検討を行う必要がある」(第一次答申)。社会保障を充実すると人間は働かなくなり、経済は活力を失ってしまう、貧しい方が国民はよく働いて活力を発揮するというべつての感情を根拠に持つものである。そして、「援助を必要とする人々」に必要とする人びとに限定して、一定の社会保障は、一定の社会増進の増加や社会増進の充実が同じ時期に急速に試みられたために、財政赤字が構造化している(臨調第三次答申)とする言分は、政当局による財政危機の責任を労働人民に転嫁するに動機がある。社会保障の全面的見直しは、社会保障への支出は「空費」であるとする資本の論理がむきだしにされている。日本の社会保障の水準からしても、この言分は全く不当なものである。と言わなければならない。

「援助を真に必要とする人々には暖かく、また十分な福祉サービスを提供し、同時に自立・自助の精神、自己責任の気風を妨げないように行政のあり方が明確にされなければならない。医療、年金、福祉、文教等については以上の観点から、制度の根本に立ち返った検討を行う必要がある」(第一次答申)。社会保障を充実すると人間は働かなくなり、経済は活力を失ってしまう、貧しい方が国民はよく働いて活力を発揮するというべつての感情を根拠に持つものである。そして、「援助を必要とする人々」に必要とする人びとに限定して、一定の社会保障は、一定の社会増進の増加や社会増進の充実が同じ時期に急速に試みられたために、財政赤字が構造化している(臨調第三次答申)とする言分は、政当局による財政危機の責任を労働人民に転嫁するに動機がある。社会保障の全面的見直しは、社会保障への支出は「空費」であるとする資本の論理がむきだしにされている。日本の社会保障の水準からしても、この言分は全く不当なものである。と言わなければならない。

大阪府教育審答申

高校生急増に定員や学級増のしわ寄せ

新設は「ムダ」との結論

大阪府学校教育審議会は八月十三日、昭和六十三年度をピークに急増する中学生の収容対策を発表した。その内容は、昭和四十六年度以降中卒者が急減することを前提として、施設・教員を遊休化させないことを基本に、高校新設ではなく学級定員(現行一学級四十七人)や学級数(現行一学年十二学級)を増やし、分校や分校舎の建設で間に合わせようというものである。

全国的にも今年より、第二次ベビーブームの子どもの成長に伴う中卒者急増問題がクローズアップされているが、大阪では六十三三年春までの六年間に三万

金のかからない安上がり策で対処しようとしている。そこには臨調・行革下の教育切り捨て路線が色濃く反映されているのである。学校教育審議会の答申で

超える四十七人学級を導入している。一学年十二学級というマンモス校(すでに府立高校の三分の二で実施)が全国的に実施される(全国では神奈川と大阪

者の教育・労働条件が極端に犠牲を強いられるのである。むしろ逆に、十年後の急減期に、四十五人学級・一学年学級規模の縮小・教員

大教組主流派は署名でお茶濁す。このよう事態にもかかわらず大教組・府高教主流派(代々木系)は、いっこうに高校増設の運動を起こ

のみのし、高校進学率も全どの大都市でもまだ採用していない一学級四十八人以上の過密クラスが生まれる。上(大阪府は五十三年度に算切りつめによって、生徒たちの教育環境や教育労働

定員の拡大などを実現すれば、決して施設や教員の遊休化は生れないし、「ひびき」だけである。その署名をとりひいて行き届いた教育が物質的に保障されるのである。

そうしないのである。やることといえば、毎年秋に恒例の教育要求百万署名だけである。その署名をえ、いわゆる進学校・伝統校の分(主流派は主にこ

こにあぐらをかいている)はほとんど取り組んでいないのが実情である。今春の学級凍結撤回ストで「臨調・行革反対がなければ無意味」として×つけ運動をした主流派が、「臨調・行革反対」を口では唱えながら、国や府から高校増設費として六百億円をひき出すという文字通り反臨調・行革の闘いを組織しようとしていない事実こそその反階級性が表われている。

草の根運動の定着、拡大という意味において、きわめて重要な意義を持つていた。集会は、原水禁・原水協の組織員がなかつたにもかかわらず、学者、労働者、婦人、学生など各界、各層から延べ百五十名の参加を克ち取った。

草の根運動の定着、拡大という意味において、きわめて重要な意義を持つていた。集会は、原水禁・原水協の組織員がなかつたにもかかわらず、学者、労働者、婦人、学生など各界、各層から延べ百五十名の参加を克ち取った。

集会は、原水禁・原水協の組織員がなかつたにもかかわらず、学者、労働者、婦人、学生など各界、各層から延べ百五十名の参加を克ち取った。

集会は、原水禁・原水協の組織員がなかつたにもかかわらず、学者、労働者、婦人、学生など各界、各層から延べ百五十名の参加を克ち取った。

集会は、原水禁・原水協の組織員がなかつたにもかかわらず、学者、労働者、婦人、学生など各界、各層から延べ百五十名の参加を克ち取った。

集会は、原水禁・原水協の組織員がなかつたにもかかわらず、学者、労働者、婦人、学生など各界、各層から延べ百五十名の参加を克ち取った。

集会は、原水禁・原水協の組織員がなかつたにもかかわらず、学者、労働者、婦人、学生など各界、各層から延べ百五十名の参加を克ち取った。

集会は、原水禁・原水協の組織員がなかつたにもかかわらず、学者、労働者、婦人、学生など各界、各層から延べ百五十名の参加を克ち取った。

集会は、原水禁・原水協の組織員がなかつたにもかかわらず、学者、労働者、婦人、学生など各界、各層から延べ百五十名の参加を克ち取った。

集会は、原水禁・原水協の組織員がなかつたにもかかわらず、学者、労働者、婦人、学生など各界、各層から延べ百五十名の参加を克ち取った。

集会は、原水禁・原水協の組織員がなかつたにもかかわらず、学者、労働者、婦人、学生など各界、各層から延べ百五十名の参加を克ち取った。

八・六原水爆禁止愛知県民集会

八・六日、愛知県では名古屋市の教育館において、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

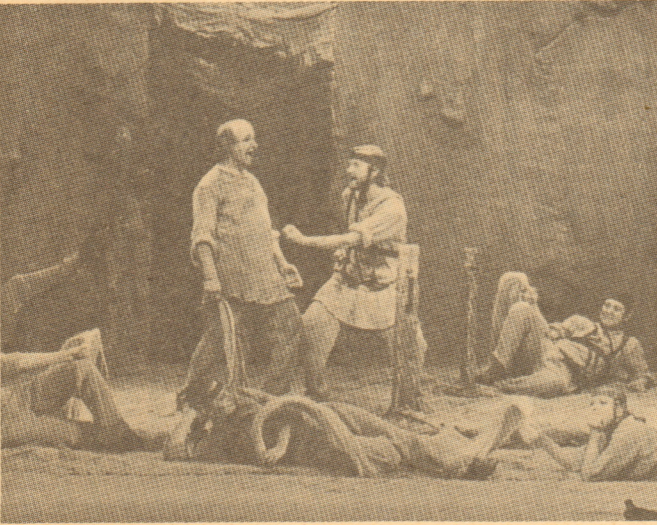
この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。

この県民集会は、愛知県の初の日民集会は、広島・長崎をめぐり、核兵器禁止・軍縮と平和をめざす愛知県民集会の開催が、八・六原水爆禁止愛知県民集会が開催された。



今秋の83ロシア・ソビエト芸術祭のレニングラード・ボリシヨイ・ドラマ劇場来日公演日程は次の通り。

- ▼名古屋 国立劇場 10月3・7日
- ▼愛知厚生年金会館 10月10・11日
- ▼大阪 大阪厚生年金会館 10月11・12日

83ロシア・ソビエト芸術祭のレニングラード・ボリシヨイ・ドラマ劇場来日公演日程は次の通り。

- ▼名古屋 国立劇場 10月3・7日
- ▼愛知厚生年金会館 10月10・11日
- ▼大阪 大阪厚生年金会館 10月11・12日

今秋の83ロシア・ソビエト芸術祭のレニングラード・ボリシヨイ・ドラマ劇場来日公演日程は次の通り。

- ▼名古屋 国立劇場 10月3・7日
- ▼愛知厚生年金会館 10月10・11日
- ▼大阪 大阪厚生年金会館 10月11・12日

「愛しき者へ」(上)と題して中野重治が家族へあてて書いた、未発表の書簡集が出版された。

この中には、一九三〇年八月から三四年八月までの一六七通がまとめられている。

そして、引き続き下巻として一九五〇年までのものが予定されている。

この時期の中野は、四月に女優原泉(政野)と結婚、五月には治安維持法違反の容疑で逮捕される。そしてその年の末に保釈出獄する。

そして、このような暗黒

今日、独占イデオロギーの攻撃の中で、人間の生き方なり、そういった問題自身を考へることが、ネクラなどと呼ばれて若者の間にそういった思考の停止がさげられている。

昭和の暗黒時代、屈せず闘い、生活においてもその闘いと結びつけて青春を送った中野重治の書簡集は、全く違った青春を送っている。現代青年にとって教訓的材料といえるだろう。

翌三二年は、更に非合法下の日本共産党に入党し、コップの活動に従事する。三二年には、再逮捕され二年間の獄中生活の後、三四年五月に共産主義運動から身を退くことを約束して出所する。

この書簡集は、主に獄中から妻政野へあてられたものが主要におさめられ、日本共産党の活動において、多くの業績を残した中野重治の人間性を知ることが、非常に興味深いものである。

そして、このような暗黒

今日、独占イデオロギーの攻撃の中で、人間の生き方なり、そういった問題自身を考へることが、ネクラなどと呼ばれて若者の間にそういった思考の停止がさげられている。

昭和の暗黒時代、屈せず闘い、生活においてもその闘いと結びつけて青春を送った中野重治の書簡集は、全く違った青春を送っている。現代青年にとって教訓的材料といえるだろう。